

岐阜市内の戦争遺跡



- 本パンフレットに掲載した戦争遺跡の多くは、個人の所有地にあります。
- 見学の際は、土地所有者の許可を得て、安全に留意してください。
- 本パンフレットはこれまでに「子どもたちに伝える平和のための資料展Ⅱ」で紹介した市内の戦争遺跡をまとめたものであり、市内すべての戦争遺跡を網羅するものではありません。
- 掲載内容は関係者への聞き取りによるものが含まれます。

【編集・発行】

岐阜市 男女共生・生涯学習推進課 〒500-8701 岐阜市司町40番地1
TEL 058(214)4792(直通) FAX 058(265)8665

【協力】

岐阜市平和資料室 友の会

市役所近く

戦火を免れた忠魂堂(現八角堂)



岐阜別院(西別院)は、岐阜空襲の警戒警報(空襲が近いという知らせ)で重要書類は3つの防空壕に入れ、空襲が始まるとお寺の人も防空壕に避難しました。焼夷弾が本堂の後ろに1発、境内に2発落ちましたが、火災は広がらなかった。しかし、周囲の町内から燃え広がってきて、バケツで消火するもの手に負えません。ついに大本堂にも朝の4時に火がついて焼け落ちてしまいました。残された建物は忠魂堂(現八角堂)、経蔵、総門、裏門、茶所、幼稚園、在方詰所の7か所のみでした。

所在地: 岐阜市西野町3-1

市役所近く

門信徒の消火作業とイチョウの木で助かった本堂や庫裏



願誓寺は、岐阜空襲では隣の本願寺岐阜別院から延焼してきて、願誓寺の重層鐘楼は燃えてしまいました。火の手は一時赤門(山門)にまで及びましたが、駆けつけた門信徒の消火作業により事なきをえて、イチョウの木で延焼がくい止められ、本堂や庫裏は無事でした。おかげで江戸時代の建物が濃尾大震災にも岐阜空襲にも耐えてそのまま残されています。

所在地: 岐阜市西野町3-6

市役所近く

空襲で本堂は失われたがご本尊は残った



永照寺は、岐阜空襲では焼夷弾によって火災が発生しました。永照寺に直撃はありませんでしたが、周りからの延焼によって本堂や庫裏は全焼しました。ご本尊の阿弥陀如来像はかろうじて守ることができましたが、過去帳は焼けて失われてしまいました。

所在地: 岐阜市八ツ梅町1丁目21-2

市役所近く

戦火に焼かれた灯籠



美江寺は、岐阜空襲では、焼夷弾の直撃と延焼により全焼しました。当時国宝(現重要文化財)のご本尊の乾漆十一面観音立像とお前立の仏像は安全な場所に移転して守られました。境内には戦火に焼かれた灯籠が傷つきながらも残されています。

所在地: 岐阜市美江寺町2-3

市役所近く

焼け残った石仏



本覚寺は、岐阜空襲で延焼してきた戦火が、建物のすべてを燃やし尽くしました。ご本尊の釈迦如来は疎開していたので無事でした。また、焼け残った石仏などが空襲の激しさを伝えていますが、新しく本堂を建てるために日本勧業銀行岐阜支店の建物を移築して利用されました。

所在地: 岐阜市泉町26

市役所近く

生き残ったイチョウの木



円経寺は、岐阜空襲では焼夷弾の直撃により、本堂、庫裏、妙見堂などが焼失しました。当時を伝えるものは境内の石灯籠と生き残ったイチョウの木があります。また、裏の墓地には戦没者と岐阜空襲の犠牲者を一緒に慰霊する石碑が建てられています。

所在地: 岐阜市泉町34番地

市役所近く

周囲の火災から焼け残った地蔵尊堂



正覚院は、岐阜空襲では焼夷弾攻撃による火災の延焼により、不動尊堂・地蔵尊堂を残し全焼しました。ご本尊や脇仏は移して守ることが出来ました。境内には、焼け残った香炉や灯籠、門柱が残っています。

所在地: 岐阜市神田町1-10-6

市役所近く

弥八地蔵



若宮町通りにある弥八地蔵は、昔から多くの人々の信仰を集めていました。そのため、境内には多くの灯籠や石仏がたくさんあります。しかし、空襲によってすべては焼けてしまいましたが、石像物はそのまま焼け残りました。

所在地: 岐阜市弥八町2

市役所近く

旧総合庁舎(旧岐阜県庁)



1922年に建てられた岐阜県庁は、空襲に対しては最大の防火体制が取られていました。消防車が常駐し職員10人で宿直体制を取っていました。岐阜空襲では、コンクリートを突き破って落下した焼夷弾を、防火用水をバケツリレーで消し止めたと言われています。現在、南側の正面玄関だけが貴重な文化遺産として保存されています。

所在地：岐阜市司町1

市役所近く

明徳のシナサワグルミ



旧明徳小学校の金華橋通りに面した脇の歩道に樹齢250年のシナサワグルミの木があります。大きな幹の空洞になっているところは、空襲による火災で焼けた跡です。当時を物語るシナサワグルミの木は大切に保存され、戦争の悲惨な歴史を伝えるものとして説明板が立てられています。

所在地：岐阜市明徳町付近

市役所近く

美江寺公園のイチヨウ



美江寺公園の南入り口の東に大きなイチヨウの木があります。幹の北側に大きな空洞がありますが、木が火災を受けた後にできる傷です。それにもかかわらず、イチヨウは傷をいやしながらか戦後を生き抜いてきたことがわかります。2023年7月9日に岐阜東ロータリークラブにより、看板が設置されました。

所在地：岐阜市美江寺町1丁目

岐阜駅近く

守られた梵鐘とイチヨウ



岐阜市の中心にある円徳寺は、織田信長公と縁のある有名なお寺です。岐阜空襲では、爆撃の中心地であった金神社のすぐ近くにあるために焼夷弾により鐘楼など建物は燃え尽きましたが奇跡的に文化財の梵鐘、境内の石柱や階段の石、イチヨウの木が焼け残りしました。

所在地：岐阜市神田町6-24

岐阜駅近く

戦後も使われ続けた本堂



西覚寺は、岐阜空襲の焼夷弾により、瞬間に焼失してしまいました。しかし、本堂は当時全国でも2つしかないといわれた鉄筋コンクリート造りだったため、内部は焼失したものの建物はそのまま残り、戦後家を焼かれた人が住んだり、職業安定所が置かれたりしました。

所在地：岐阜市吉津町2丁目8

岐阜駅近く

焼け残った灯籠



玄龍寺は、焼夷弾攻撃により、本堂、庫裏、山門、経堂、鐘楼という境内のすべての建物が燃え尽きてしまいましたが、灯籠は焼け残りしました。

所在地：岐阜市幸ノ町1丁目4

岐阜駅近く

じゅうろくてつめいギャラリー



長良橋通りと徹明通の交差点に近い「じゅうろくてつめいギャラリー」は、十六銀行徹明支店として戦前から使われていた建物です。空襲によって内部はほとんど焼けてしまいましたが、石造りの建物は残ったので、改修して使い続けられました。現在貸し出しは行われておりません。

所在地：岐阜市徹明通1丁目3-3

岐阜駅近く

赤口神社のこま犬



本郷公園の南側、けやき通りに面した小さな赤口神社のこま犬です。もっとも激しい空襲にあった本郷地区にあった赤口神社も焼けてしまいましたが、岩でできたこま犬は焼けたながらも当時の姿を伝えています。

所在地：岐阜市本郷町2丁目12

岐阜駅近く

こがね とうろう 金神社の灯籠



岐阜空襲の目標点であった金華橋通りと徹明通の交差点に近い金神社は、建物はすべて焼失してしまいました。境内にある桶は、空襲を生きのびたものと思われます。本殿の裏にある末社の灯籠は、大正六年の銘が刻まれています。欠けたりひび割れたりして空襲にあったことがわかる貴重な遺物です。

所在地：岐阜市金町5丁目3

岐阜駅近く

すみよし じん じゃ とうろう 住吉神社の灯籠



住吉神社は、元々旧名鉄岐阜バスターミナルの南にありましたが、再開発により東200mの現在の場所に移されました。神社の境内には空襲で焼け残った石の鳥居や灯籠、常夜灯が残されています。空襲で神社の本殿など周辺の建物はほとんど焼失してしまいましたが、石の造形物は戦火に耐えて空襲の歴史を今に伝えています。

所在地：岐阜市高砂町4丁目50-2

岐阜駅近く

イチョウの木のおかげで助かったいのち



天理教岐阜分教会は、岐阜空襲の時には、戦前から教会の敷地内にあったイチョウの木の下に逃げた人々は助かりましたが、防空壕に逃げた人たちは助かりませんでした。周囲からの火災によって防空壕の中で焼け死んでしまったのです。教会のイチョウの木と門柱は焼け残って空襲の恐ろしさを伝えています。

所在地：岐阜市本郷町4-28

本荘地区周辺

激しい空襲に耐えた釣り鐘



大寶寺は、岐阜市の中心地にあったために焼夷弾により「全家屋灰燼」と伝えられたような状況ですべてが焼けてしまいました。鐘楼も焼け落ちましたが、江戸時代に作られた釣り鐘は残りました。火にあたったため、音色は悪くなったといわれますが、戦争を伝える貴重な遺物となっています。

所在地：岐阜市大宝町2-1

本荘地区周辺

しょうろう かね 焼け残った鐘楼に鐘はなく



妙圓寺は、岐阜空襲では、ご本尊や寺宝、過去帳などは、住職らが持ち出して無事だったものの、焼夷弾によりほぼ焼失しました。鐘楼は、焼け残りしましたが、鐘は金属供出により既になかったため、戦後再建されるまでは、鐘楼のバランスを保つために大きな石をつり下げました。

所在地：岐阜市鍵屋西町2-4

本荘地区周辺

もん ちゅう 焼け残った門柱



西福寺は、焼夷弾の直撃を受け、すべての建物が焼失し、焼け残った門柱が残っています。戦後は、焼けたお寺の再建とともに幼稚園を開いて幼児教育に力を注ぎました。園内には焼け残ったケヤキが枝を広げています。※幼稚園敷地内には立ち入りできません

所在地：岐阜市島田西町85

本荘地区周辺

きん ぞく きょうしゅつ もと はんしやう 戦後、金属供出から戻ってきた半鐘



法隆寺は戦時中、「法隆布教所」（岐阜市千手堂南町4丁目）として、岐阜空襲を迎えましたが、焼夷弾が近くに2発落ちて、火災が広がってすべて焼けたという記録があります。戦後、移転して「法隆寺」となりましたが、そこに戦時中に金属供出された半鐘が戻されてきました。

所在地：岐阜市五反田町17

本荘地区周辺

立派に生き残ったイチョウの木



市民からは千手堂と呼ばれている善福寺は、岐阜空襲によってすべての建物を焼失してしまいましたが、ご本尊は疎開していたために守ることができました。また、境内に残るイチョウの木や一對の石灯籠も戦火を免れ、戦前の威光を伝えています。

所在地：岐阜市千手堂北町2丁目2

本荘地区周辺

焼け跡に門柱だけが残っていた



真誠寺は、岐阜空襲により本堂や庫裏だけでなく経営していた幼稚園もすべて燃えてしまいましたが、門柱だけが残っていました。(現在は廃寺になっています)

所在地：岐阜市羽衣町1丁目16

本荘地区周辺

焼け残った石碑



醫王寺は、岐阜空襲で焼夷弾の直撃を受け、本堂などほとんどが焼けてしまいました。しかし、お寺の周りは田だったので、ご本尊の薬師如来像は衣に包んで近くの田に放り投げて逃げたので、無事に守られました。境内には、焼け残った石碑が残っています。

所在地：岐阜市此花町6-25

本荘地区周辺

本荘神社のケヤキ



本荘神社には、空襲で傷ついたケヤキが残っています。本荘地区の人々も空襲を受けて、火災から避けるため神社にも逃げてきたことでしょう。しかし、そもそも火災から逃れることができなかったことをケヤキが証言しています。

所在地：岐阜市教場町9丁目24

加納地区周辺

焼け残った灯籠



西蔵寺は、焼夷弾の直撃を受け、全焼しました。しかし、ご本尊は、当時7歳の前任職に背負われて、三里小まで逃げて守られました。境内には、焼け残った灯籠が残っています。

所在地：岐阜市菊地町1-15

加納地区周辺

残ったのは山門の礎石だけ



雲端寺は、岐阜空襲ですべての建物が焼けてしまいましたが、ご本尊などは、避難させていたので無事でした。山門の礎石(柱を支える土台の石)だけが、境内の砂利の中に残っています。裏の墓地では、戦前から伝わる五輪塔や石仏が焼け残って、火災のすさまじさを伝えています。

所在地：岐阜市加納天神町3-7

加納地区周辺

焼け残った石碑



節分の近くになると、加納桜道に大きな鬼が飾られることで有名な玉性院は、岐阜空襲では、焼夷弾により敷地内の建物はすべて焼けてしまいました。それでもご本尊は移されて守られました。境内には、焼け残った石碑などが残されています。岐阜空襲からの立ち直りと、人々の厄を落とすために始められたのが節分の「つり込み祭」で、多くの子どもたちも参加しています。

所在地：岐阜市加納天神町3-8

加納地区周辺

激しい火と熱によって傷んだ石碑



欣浄寺は、岐阜空襲では、岐阜駅周辺が真っ先に爆撃を受けたために、たちまち燃え落ちてしまいましたが、ご本尊は守られて無事でした。境内には激しい火と熱によって傷んだ石碑や石柱が形を保ち残されています。

所在地：岐阜市加納栄町通2-4

加納地区周辺

焼け残ったのは芭蕉の句碑と灯籠



信浄寺は、焼夷弾が境内や周辺に直接落ちて建物は全部焼けてしまいましたが、ご本尊は、移して無事に守ることができました。境内の松尾芭蕉の句碑は割れてしまいましたが、焼け残りました。

所在地：岐阜市加納清水町1-29

全焼し残った石碑や石仏



西方寺は、1921年、後にノーベル賞を受賞する川端康成が、初恋の恋人を訪ねて訪れています。その恋人とは結婚の約束をしましたが、結局結ばれませんでした。川端の小説「篝火」によると住職と暮を打ち昼食も食べています。その本堂は岐阜空襲で焼夷弾の直撃により、全焼してしまいました。境内には念仏を書いた石碑や石仏が残っていますが、川端康成の足跡はすべてなくなってしまいました。

所在地：岐阜市加納新本町1-2

空襲による火災の熱によりひびが入った石碑



妙泉寺は、「ぶたれ坊」を安置するお寺として知られています。江戸時代の相撲取りの二代目鏡岩は、加納宿で宿屋を営んでいましたが、奉公人をこき使うなどひどい主人でした。そこで和尚にいさめられて反省し、自分と同じ木像を造って、旅人に棒でぶたせました。ぶった旅人にお茶を飲ませたことから、そこが「茶所」（加納八幡町）と、木像は「ぶたれ坊」と呼ばれるようになりました。境内には、空襲による火災の熱によりひびが入った石碑などが残されています。

所在地：岐阜市加納伏見町16

焼け残った石柱と山門



光國寺は、徳川家康公の娘、龜姫ゆかりの寺で、当時から大変広い境内を誇っていました。しかし、岐阜空襲によりすべての建物は焼えてしまいました。しかし、ご本尊など貴重な宝物や絵地図などは、避難させていて無事でした。焼け残った石柱と山門があります。

所在地：岐阜市加納西広江町2-28

焼け残った半鐘



水薬師寺は、岐阜空襲により建物の大半を焼失しました。運良く焼け残った地藏堂（お地藏様をまつるお堂）では、今でも地藏盆（お地藏様のお祭）には周辺の子もたちがたくさんお参りに来ます。半鐘（小さな鐘）も残りだったので、7月9日の岐阜空襲の日には、半鐘を叩いて亡くなった人を供養し、戦争の恐ろしさを子どもたちに語り伝えています。

所在地：岐阜市加納南広江町49

岐阜西通りのプラタナス



加納新本町から南にのびる岐阜西通り沿いのプラタナスの街路樹に、岐阜空襲で被災したという木製の札が掛けられていました。やがて札の文字も見えなくなってしまったので、金属製のプレートに掛けかえられました。

所在地：岐阜市加納桜田町1丁目付近

岐阜大学教育学部附属小中学校の大イチョウ



岐阜大学教育学部附属小中学校の校庭には、岐阜空襲によって傷ついたイチョウの木があります。このイチョウは傷つきながらも生き残り、その後、子どもたちに見守られて、勢いを取り戻し、たくさんの実をつけるようになりました。
※学校敷地内のため立ち入りできません

所在地：岐阜市加納大手町74

奇跡的に残った拝殿



加納天満宮は、岐阜空襲では、3発の焼夷弾が境内を直撃し、本殿や社務所が焼失してしまいました。本殿にあったご神体は、炎の中で救出されたと伝えられています。拝殿は奇跡的に残りました。境内には焼け残った樹齢四百年近いご神木のクスノキや、鳥居、灯笼や狛犬が戦前のままに残されています。

所在地：岐阜市加納天神町4丁目1

焼失を免れた鐘楼



瑞龍寺は、岐阜空襲により、すべての建物が焼けてしまいました。しかし、少し離れていた鐘楼は被害をまぬがれて、現在も鐘を響かせています。再建された本堂の西には、焼け残ったイチョウの木が、見事に再生しています。

所在地：岐阜市寺町19

焼け残った石柱や灯籠



瑞龍寺の塔頭(末寺)である天澤院は、瑞龍寺の修行の道場として使われていました。瑞龍寺の参道の両側に塔頭がいくつもありましたが、東側の塔頭はすべて焼夷弾により焼けてしまいました。西側では天澤院だけが全焼してしまいました。境内には焼け残った石柱や灯籠などが、裏に残る墓地にも、焼けた跡がある墓石がたくさんあります。地藏堂も焼けてしまいましたが、お地藏様はそのまま残っています。

所在地：岐阜市寺町19

焼け残った織部灯籠



瑞龍寺の塔頭(末寺)である瑞雲院は、岐阜空襲で焼夷弾の直撃により焼けてしまいました。焼け残った織部灯籠が残っています。

所在地：岐阜市寺町19

境内にある防空壕の跡



瑞龍寺の塔頭(末寺)である臥雲院は、岐阜空襲では焼夷弾の直撃により全焼してしまいました。ご本尊は、知り合いのお寺に疎開していたので助かりました。近くの岩山には防空壕に使われた横穴が残されていますが、避難したのは軍隊だったと伝わっています。臥雲院の境内にも防空壕の跡が残っていました。他にも焼け残った石碑などがたくさん残されています。

所在地：岐阜市寺町19

白山小学校の「わたの木」



白山小学校の校庭の南東にある大きな「わたの木」(ヤナギ)は、岐阜空襲時の爆弾の直撃で幹が二つに裂けてしまいました。しかし、奇跡的に生き残り、成長して2本の木のように育っています。戦争を伝える木として、子どもたちも大切に守ってきました。今も5月には白い「わた」を飛ばしているのが「わたの木」と呼ばれています。

※学校敷地内のため立ち入りできません

所在地：岐阜市白山町2丁目1-1

上加納山の戦災者慰霊墓地



岐阜空襲によって亡くなった遺体は、上加納山墓地に運ばれてきましたが、身元確認はなかなか進みませんでした。引き取り手のなかった遺体はやむなく墓地の山裾に大きな穴を掘って埋葬されました。その後、遺族により墓碑が建てられて犠牲者の霊を弔っています。

所在地：岐阜市上加納山

上加納山の萬霊供養塔



上加納山墓地の東側に「萬霊供養塔」と彫られた大きな石塔があります。碑には「空襲により悲惨の焼死を遂げ、跡弔う人なく無縁仏となってこの墓地に葬られし387人の人々を憶へば」との言葉が刻まれています。岐阜空襲の死者が900人ほどだったので、死者の40%以上が身元もわからない無縁仏となったということです。1948年、岐阜市仏教会により建てられました。

所在地：岐阜市上加納山

天王坊のキツネ



溝旗神社の隣にある天王坊稲荷神社も、焼夷弾による火災に襲われました。当時としては珍しいコンクリートの赤い鳥居も火災の熱で西側だけが黒く焼け焦げました。鳥居の前にあるコンクリートで作られたキツネも、西側は熱により黒くなり、耳が欠けてしまうなど、火災のすごさを物語っています。

所在地：岐阜市溝旗町4丁目2

溝旗神社のこま犬



白山地区にある溝旗神社は、焼夷弾により焼失しました。拝殿の裏にある石でできたこま犬も激しい熱のため、ひび割れてしまいました。今では崩れる危険があるので針金で補強されています。かたい石まで割ってしまう火災の熱はどのようなものだったのでしょうか。

所在地：岐阜市溝旗町3丁目1

梅林地区周辺

焼け残った石碑



浄土院は、岐阜空襲では焼夷弾により、瞬く間に、境内の建物が全焼してしまいました。焼け残った石碑が残っています。

所在地：岐阜市東駒爪町16

島地区周辺

焼けた石灯籠



真蔵寺は、空襲を予想して一部の法物は前もって防空壕に入れて守っていました。岐阜空襲では、焼夷弾が数発直撃し、建物はすべて焼失しました。ご本尊は空襲の中を当時の前坊守が持って避難しました。ご本尊の光背は持ち出せず焼失しました。空襲を受けたものは数少なくなっていますが、焼けた石灯籠などが残っています。

所在地：岐阜市島栄町3丁目43

島地区周辺

焼け残った半鐘



阿願寺は、戦時中に軍隊が利用していたので、米軍の焼夷弾の直撃により、すべての建物が焼けてしまいました。一方、軍隊がいなかった近くのお寺には全く被害がありませんでした。再建された本堂に残る半鐘は、焼け残ったものです。境内には、焼け残った石仏、灯籠、モチノキなどが、大切に守られています。

所在地：岐阜市東島4-7-1

島地区周辺

焼け残った石灯籠



尊照寺は、岐阜空襲では焼夷弾の直撃を受けて、瞬く間に燃えあがりましたが、付近にも多くの焼夷弾が落とされて、燃え残った焼夷弾の筒が垣根のようになっていたそうです。しかし、ご本尊は毛布にくるんで防空壕で守られました。焼け残った石灯籠は安全のために柵でおおわれています。

※幼稚園敷地内には立ち入りできません

所在地：岐阜市則武西2丁目25番27号

鏡島地区周辺

兵隊が消火して守られたお寺



戦時中、広い本堂や境内があるお寺には軍隊が軍事行動のために滞在することがありました。教寿寺にも30人ほどの兵隊がいました。岐阜空襲が始まると、教寿寺にも焼夷弾が境内に落とされましたが、兵隊が消火して建物の焼失をまぬがれることができました。

所在地：岐阜市鏡島1689

鏡島地区周辺

鏡島のモミジ



鏡島大橋を南に渡って、旧中山道を西に入ったところに空襲で傷ついたモミジが残されています。空襲を受けた当時の鏡島は、住宅も少なく田んぼが広がる地域でしたが、高射砲部隊が置かれたことで、鏡島も空襲に襲われました。傷ついたモミジは大きく育って空襲の歴史を伝えています。

所在地：岐阜市鏡島精華1丁目付近

合渡地区周辺

焼け残った鐘楼



願明寺は、岐阜空襲では焼夷弾による爆撃で、本堂とともにご本尊も焼けてしまいましたが、鐘楼は焼け残りました。1976年の長良川水害のあと、現地に鐘楼と共に移転しました。

所在地：岐阜市河渡3丁目71

合渡地区周辺

焼け残った石灯籠



最乗寺は、岐阜空襲の夜、焼夷弾が周辺に落ちて円成寺や合渡小学校が燃え始めました。最乗寺にも焼夷弾が直撃しますが檀家の方々と協力して消火し、無事に空襲を乗り越えました。しかし、水害対策の長良川堤防の拡張工事によって1981年に現在の場所に移転してきました。焼け残った門柱、山門、石灯籠はそのまま移してきました。

所在地：岐阜市寺田7-89

合渡地区周辺

焼け残ったイチョウの木と石灯籠 いしとうろう



円成寺は、岐阜空襲では焼夷弾の直撃を受けて、近くの合渡小学校、合渡村役場とともにすべての建物が焼失しました。境内に残っているのはイチョウと石灯籠だけとなりました。

所在地：岐阜市寺田852

合渡地区周辺

焼け残った堀にかかっていた石の橋



超宗寺は、岐阜空襲を受けたとき、当時中学生の前住職は過去帳などが入った非常用行李(箱)を防空壕に運び出しましたが、焼夷弾の直撃を受けた本堂の障子がすでに炎を上げて燃えていたので、ご本尊は持ち出すことができなかったと記録しています。すべての建物は焼

失してしまいましたが、堀にかかっていた石の橋は、庭石などに使われています。

所在地：岐阜市曾我屋1663

合渡地区周辺

焼け残った不動堂 ふどうどう



宝樹寺は、岐阜空襲では焼夷弾の直撃によって、現在の不動堂だけを残してすべて焼失してしまいました。境内からは当時の軒瓦が出てきて保存されています。また、歴史のある石仏も掘り出され、多くの信仰を集めていたことがわかります。

所在地：岐阜市曾我屋1586-1

鶉地区周辺

燃えずに残った本堂



深広寺は、空襲に備えて、深広寺の裏に通信機械や部隊が置かれていました。岐阜空襲が始まると、焼夷弾の直撃により庫裏が燃え始めましたが、裏にいた陸軍の兵隊たちが消火活動を行って、庫裏から本堂への延焼を防ぎました。庫裏から本堂につながる板戸は、焦げてし

まいましたが、それ以上燃え広がることはありませんでした。今でも、焦げた板戸の跡が残っています。

所在地：岐阜市中鶉4丁目109-1

鶉地区周辺

防空壕があった鐘楼 しょうろう



萬誓寺は、再度鶉地区に空襲があった7月12日に、ほとんどの建物が焼失してしまいました。焼夷弾による空襲は火の回りが早く、ご本尊を背負って逃げるのがやっとで、過去帳などの貴重品は焼けてしまいました。鐘楼の下に防空壕が作られて、その鐘楼は焼け残って助かりました。現在の鐘楼は建て直されています。

所在地：岐阜市中鶉5丁目105

平和都市宣言

緑豊かな金華山と清流長良川に代表されるわたしたちのふるさととは、自由と平和をとうとぶ風土をはぐくみ、活力に満ちた住みよいまちづくりを目指しています。この美しい自然を愛し、自由と平和を求める心はわたしたちのみならず、人類共通の願いであります。

わたしたちの岐阜市は、世界の各都市と友好・姉妹都市提携を進め、相互の信頼を深めつつ平和への道を歩んでいます。

市制施行百年を迎えるに当たり、すべての核兵器と戦争をなくすことを訴え、世界の人々とともに真の恒久平和が達成されることを願い、ここに「平和都市」を宣言します。

昭和63年7月1日 岐阜市

岐阜市平和資料室



終戦後の岐阜市の繁華街の風景です。当時の丸物百貨店(今は中日ビル)の屋上から、西の方角を撮影。手前が柳ヶ瀬で、左の丸い建物は「岐阜劇場」(今は高島屋)です。にぎやかな街がひと晩で、地平線が見渡せるほどの焼け野原になりました。

ご案内

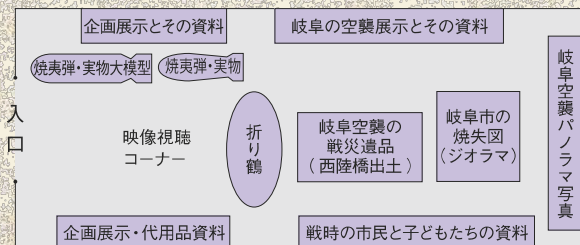
20世紀は、核兵器が生み出された「戦争の世紀」でもありました。原爆が投下されたヒロシマ・ナガサキをはじめ日本中の街が爆撃されて、国内だけで50万人とも言われる尊い命が奪われました。

この岐阜市も例外ではなく、ひと晩で街が焼け野原と化し、約900人もの尊い市民の命が失われた「岐阜空襲」として語り継がれています。

以来、年月を経て各方面のご協力により、「岐阜空襲」当時を色濃く残す品々を集め展示することができました。生々しい戦争の爪跡を感じていただける資料の数々です。ぜひ多くの方にご覧いただき、平和への願いを新たにすきっかけになることを願っております。



◆フロア図◆



※企画内容によって展示が変わることがあります。

岐阜市平和資料室

〒500-8521 岐阜市橋本町1-10-23 ハートフルスクエアG(2階)

■開館時間 午前9時～午後9時

■休館日 毎月最終の火曜日 年末年始(12/29～1/3)



令和6年2月発行

1. 焼夷弾



〈上〉M-47 焼夷弾：実物
 〈右〉E-46 集束焼夷弾：実物大模型



2. 戦時のくらしと子どもたち

生活用品も、子どものおもちゃも、「戦争一色」でした。



土人形
 日本の兵隊さんが、敵をやっつけています。



爆弾型の貯金箱



〈上〉将棋のコマ
 「地雷」「スパイ」「軍旗」。遊びも戦場用語を使います。



戦時のチラシ
 市民の気を引き締めるため、町内の家々に回覧されました。



〈左〉子どもの茶わん
 戦車の絵が描かれたものや、ふせると当時の日本軍の鉄カブトの形になるものも。



千人針 糸の結び目をぬい付けた布。多くの女性にぬってもらうと、兵士の「弾よけ」になると言われました。

3. 戦災の遺品



〈左〉焼けたコンパクト
 中には焼けた、当時の新聞が入っています。パフの代用です。

〈下〉溶けたガラスビン
 空襲の高熱で、ビンも溶けました。



4. 代用品

戦争がはげしくなると、兵器を造る金属が不足します。そのため日本中の家庭からナベや鉄板など金属製品を提供させて兵器に変えました。生活用品を、ガラスや陶器などで造ったものを、「代用品」と言います。落としたら割れる、危険な物でもありました。

〈右上〉陶器の「一銭硬貨」
 〈右下〉 ガラスの水とう

貝がらの「おたま」
 これで、みそ汁などをすきました。「おまご」というのですね。



〈平和の折り鶴〉

入口から正面にあります。市内外の方や子どもたちから、平和を願って毎年寄せられます。

〈企画展と常設展〉

折り鶴から手前が〈企画展〉。毎年7月20日ごろ（夏休み開始時期）に新しく展示替えています。その奥が〈常設展〉。「岐阜空襲と戦時のくらし」がテーマです。

◆岐阜空襲は、このように行われました

米航空軍第21爆撃機集団「作戦任務報告書」より作成

攻撃部隊	第21爆撃機集団 第314群団
爆撃機数	129機（マリアナ基地発進機数/135機）
攻撃日時（日本時間）	7月9日23時34分～10日1時20分
爆弾投下高度	4,000m～5,300m
天候	晴れ、視界を妨げるものなし
爆撃中心点（MMP）	061062（徹明通りと金華橋通りの交差点）
投下弾	
E46集束焼夷爆弾	2,387発 477.4トン
M47焼夷爆弾	12,221発 421.4トン
計	14,608発 898.8トン
与えた損害	5.34km ²
	市街地 5.00km ² （市街地の74%）
	周辺地 0.34km ²
	岐阜駅および広場、共同毛織、富士ガスなど
	市内の16工場を破壊した。
	（商店街、住宅地への攻撃には触れていない）

岐阜空襲80年平和動画

昭和20年7月9日の岐阜空襲から令和7年で80年が経つことを契機に、岐阜空襲の惨禍を後世に語り継ぎ、平和の尊さを啓発するため、「岐阜空襲80年平和動画」を制作しました。

岐阜空襲の概要や体験談をまとめた動画となっています。
岐阜市公式YouTube等で、是非、ご覧ください。

動画紹介ページの
QRコード



動画の主な内容 (動画は全部で13本)

1 岐阜空襲の概要説明

約13分



「岐阜空襲を記録する会」の協力のもと、「岐阜空襲の概要」についてまとめた動画です。

戦時中の資料や写真などを数多く使用し、岐阜空襲とはどのようなものであったかを知ることができる動画になっています。

2 炎のなかの子守歌 (平光美那子さんの岐阜空襲体験談)

約16分



平光美那子さんの岐阜空襲体験談「炎のなかの子守歌」についてまとめた動画です。

岐阜空襲時の悲しいけれど、やさしい子守歌の物語を、挿絵を用いて、子どもたちにわかりやすく制作しました。

3 岐阜空襲体験談 (計8名・6テーマ)

約55分



岐阜空襲体験者の公募に応募いただいた8名のお話を6つのテーマ(空襲のとき、焼けあとの街、戦時の子ども、戦時の家族、飢えと食糧、戦争の時代)に分けて、制作した動画です。

いろいろな視点から岐阜空襲の体験談を語っていただいています。

問い合わせ先

岐阜市 市民協働生活部 男女共生・生涯学習推進課
〒500-8701 岐阜市司町40番地1 TEL 058-214-4792